

株主メモ

決算期	毎年5月31日
定時株主総会	毎年8月
株主確定基準日	毎年5月31日
	その他必要があるときはあらかじめ公告します。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
電話照会先	UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 東京(03)5683-5111(代表)
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
1単元の株式の数	50株

お知らせ

株券失効制度	平成15年4月1日施行の改正商法により「株券失効制度」が創設され、株券を喪失された場合の手続きが従来の公示催告・除権判決により再発行を受ける手続きより簡便になりました。詳細は名義書換代理人にご照会ください。
単元株変更	平成14年12月2日をもって当社株式の流通活性化と投資家層の拡大を図る目的で1単元の株式の数を100株から50株に変更しておりますのでお知らせいたします。
決算公告の電子化	貸借対照表及び損益計算書を当社ホームページ(http://www.kappa-create.co.jp)に掲載することといたしましたので、ご参照ください。なお、第25期は平成15年8月28日付日本経済新聞にも「決算公告」を掲載いたしますのでお知らせいたします。



カッパ・クリエイト 株式会社

〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町3-372
TEL.048-666-6313

<http://www.kappa-create.co.jp>

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています



地球環境に配慮した大豆油
インキを使用しています

KAPPA BUSINESSES

第25期事業報告書

平成14年6月1日から平成15年5月31日まで

カッパ・クリエイト 株式会社

JASDAQ

証券コード:7421

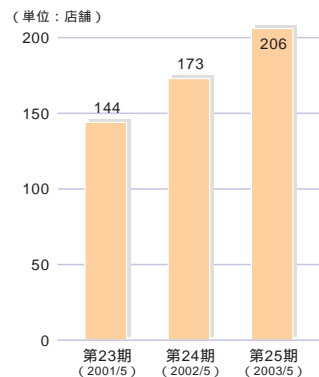


**きどらぬ普段がある。
いつもと変わらぬ箸との生活がある。**

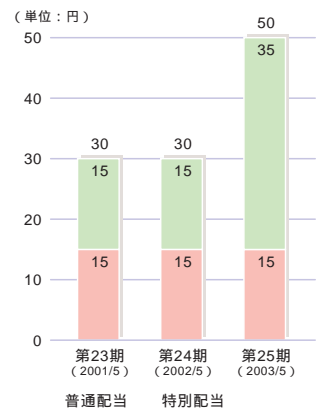
次々と回ってくるバラエティ豊かなお寿司のお皿を眺めながら、思わず笑顔がこぼれるひととき。どれでも好きなものを選んで、好きなだけ食べられる幸せ。かっぱ寿司のお皿はどれも100円。ご家族みんなで気軽に楽しめる回転寿司の美味しさをお伝えしたい。低価格で新鮮

な商品をお届けしたい。そんな願いを込めて、カップ・クリエイトは、日本全国にカジュアルなお寿司の文化を広げてまいりました。ロープライスとアメニティの両立で、新しい食の楽しさ、おいしさを提案します。

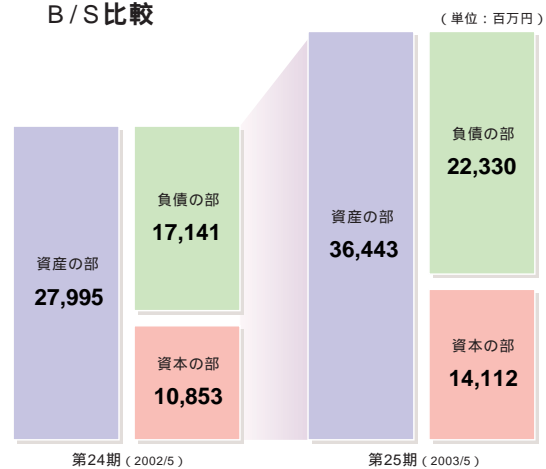
店舗数の推移



1株当たりの配当金の推移



B/S比較



株主の皆様へ



代表取締役会長
徳山 淳和



代表取締役社長
荒木 操

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第25期(平成14年6月1日から平成15年5月31日まで)を終了いたしましたので、ここに事業報告書をお届けし、事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当期における経済情勢を顧みますと、国内景気は緩やかな回復に向かうものと期待されましたが、米国経済の先行き不透明感やわが国の株価の下落や雇用・所得環境の悪化等により個人消費は低迷のまま推移し、外食業界は非常に厳しい状況が続いております。

かかる状況下、当社は非効率店の閉鎖を進める一方、大型店の新規出店に力を入れ、売上のアップと効率化を実行し、「攻め」の姿勢を一層強め、体質の強化と企業価値の増大に努力を傾注いたしました結果、売上高、経常利益、当期純利益ともに4期連続過去最高を更新いたしました。

当期の利益配当金につきましては、株主の皆様のご支援にお応えすべく前期に比べ特別配当20円増配の50円とさせていただきます。

今後も景気は急に回復するものとは思えず、個人消費を取り巻く環境は依然として厳しさが続くものと思われまふ。当社グループにおきましては、引き続き積極的な営業活動を推進するとともに、経営全体にわたる合理化、効率化、ならびに管理体制の強化に努めてまいり所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年8月

かっぱ瓦版

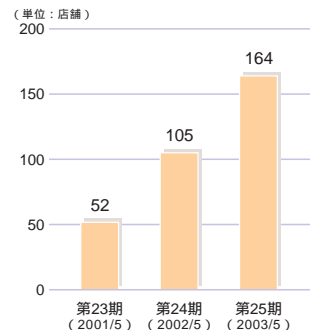
庶民派グルメ回転寿司

59

店舗

本年度の新規出店数

ニュータイプ店舗数
(改装店含む)



ファミレス感覚の大型回転寿司店を積極的に出店。

カッパ・クリエイトでは、従来から業界に先がけ120席以上の座席数の大型店の出店を積極的に展開しています。当期は、関東地区23店舗、中京・東海地区21店舗、近畿地区10店舗、その他5店舗の計59店舗を出店し、2003年5月末現在で全国の店舗数は206店舗となりました。今後も新規出店ペースをさらに加速させ、2008年には500店舗体制を構築し、シェアを拡大する計画です。また、大型店の積極展開と同時に、従来型の小型店(50~80席)の積極的なスクラップ&ビルドを進め、一層の生産性の向上を図ります。

ニュータイプの大型店舗は、ファミリーレストラン風の店づくりで、お子さま連れやグループに対応できるボックス席が主体です。また高齢化社会に対応し、バリアフリー仕様に徹し、通路面も幅広く、高い天井とともに開放感を与えています。大型の駐車場を完備し、混雑する休日やお昼時も空席待ちの心配も減少。ゆっくりお食事が楽しめる雰囲気、家族連れや女性同士のお客さまも、お気軽に、しかも高い頻度でご利用いただけるようになりました。



(上)板橋店 (中)三鷹店
(下)練馬店



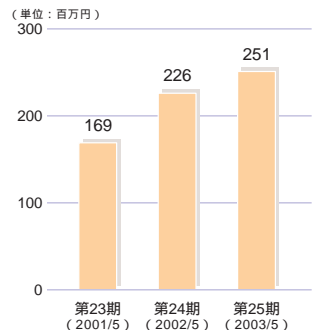
111

%

1店舗当たりの売上高の増加(注)



1店舗当たりの売上高(注)



(注) 期中の出店又は退店については実稼働により、算出してあります。

大型店の出店増加で、効率性も大幅に向上。

カッパ・クリエイトでは、積極的に大型店舗の新規出店とともに、従来型の小型店のスクラップ&ビルドを進め、5月末現在で全店舗数206店のうち、100席以上の大型店舗が164店を占めることになりました。大型店舗の増加により、1店舗当たりの売上高(注)は251百万円となりました。大型化した新タイプ店は、店舗面積120~200坪、客席数120~300席。従来的小型店と比べ、売上高と生産性が高く、競合にも強いことが特徴です。大型店への切り替えで、従来店よりも高い生産性が立証できました。

今後は、ドミナントエリアの拡大と密度を高めるとともに、低投資で効率的な店舗を作るため、建築コストの見直しを図るなどロジスティクスの高効率化により、これまで以上のスケールメリットによるローコストオペレーションや減価償却費の引き下げで、利益重視の体質強化をさらに進めてまいります。

C O L U M N

いつも新しい出会いがある、多彩なメニューが好評です。

かっぱ寿司では、定番メニューのグレードアップに加え、「まぐろの竜田揚寿司」「コンビーフ軍艦」など、生魚にこだわらないバラティエー豊かな新メニューを開発し、幅広いお客さまに親しまれています。旬の味をお楽しみいただける「期間限定メニュー」は、メニューの活性化にもつながり、お客さまの注目度も高くなっています。全国展開のキャンペーンに加え、各店ごと、あるいはエリア別のプロモーション活動も活発に行っており、「穴子祭り」「さんま祭り」等多彩な企画でお客さまサービスを実施。地域の固定ファン層の拡大を図っています。

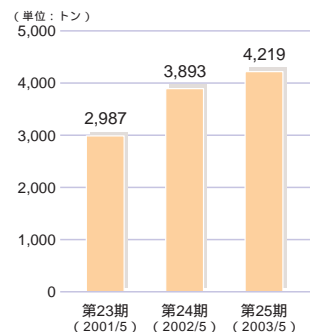


134 万皿

1日の販売数
(数値は概算値です)



工場の取扱量数



店舗拡大に対応し、
セントラルキッチン
の供給体制を強化。

全国の各店舗で、1日あたりに回る皿の数は約134万皿。各店舗でのネタごとの販売・在庫状況は、店舗POSを通じ、逐一、本部コンピュータで把握し、物流をコントロールしています。

各店舗で使用する寿司ネタは、自社のセントラルキッチンで一括加工し、各店舗に自動的に配送されます。在庫管理や発注業務は本部が一括。各店舗は仕入れや加工業務にわずらわされることなく、店舗運営に専念できます。

店舗、本部、製造工場、物流センターのネットワークシステムによる店舗作業のマニュアル化で、大量出店が可能なローコストオペレーションを実現しています。

上尾工場では店舗数の今後の大幅な増化に対応するため、前期、冷凍設備を増強したのに続き、当期は生産ラインを4ラインから8ラインに増やし、供給体制を強化しました。



C O L U M N

そば・うどん事業の 「家族亭」と業務提携。

この度、当社は(株)家族亭の第三者割当増資を引き受け、16.6%の筆頭株主となりました。今後は、家族亭に対し、当社の店舗運営ノウハウを提供するとともに、当社子会社(株)得得のうどん・そば事業の拡大を図ります。また、店舗管理システムの共同開発、共同仕入れによる調達コスト低減、出店候補地の情報交換などを進めます。



鮮度

安全衛生管理

品質管理の徹底は、おいしさと安心へのこだわりから。

消費者の食品の安全に対する意識がますます高まるなかで、私たち飲食店にもさらに万全の安全対策が求められています。当社は「健康」「安心」「安全」を基本に従来からの10分ごとの手洗いと殺菌の実行や商品保管及び消費期限の厳格なルールに基づいたオペレーションの実施に加え、大量仕込みから小分け仕込み等への移行により、二次感染や保管中の劣化に対しても細心の注意をはらっています。さらに、食品洗剤や清掃用クリーナーも、殺菌効果のあるものを導入しています。これからも当社は、つねにお客さまに安心してお召し上がりいただける生鮮食品の提供を心がけてまいります。



得得瓦版

連結子会社紹介

低価格うどん・そば店「とくの屋」を関西圏と首都圏で展開。

(株)得得では、直営店舗の新規出店を厳選し、既存店舗の活性化、FC店舗の開発、新業態の実験に積極的に取り組んできました。直営事業では関東地区に低価格業態のロードサイド店舗をはじめとした実験店を展開し、新規出店は11店舗、平成15年3月末の店舗数は直営店30店、FC店107店となりました。またFC事業は引き続き既存店の活性化と新規加盟の増加に努めています。

前期から、かっぱ寿司のロープライスポリシーと大型店舗戦略のビジネスノウハウを活用し低価格うどん・そば店「とくの屋」を展開していますが、いずれも客席数が100席規模の大型店で「かき揚げうどん」「ざるうどん」などを380円で販売しています。

平成15年3月期の売上高は前期比6.9%増の37億62百万円となり、2年後の株式上場を目指しています。



とくの屋 多摩松木店

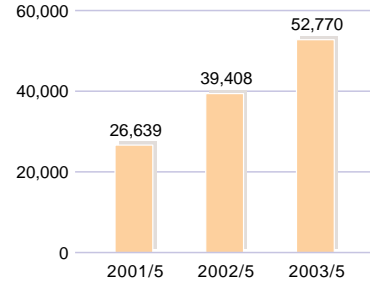


財務ハイライト

売上高の推移

(単位：百万円/5月期)

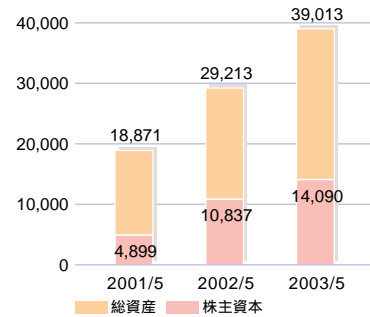
527億70百万円
前期比 33.9%増



総資産・株主資本の推移

(単位：百万円/5月期)

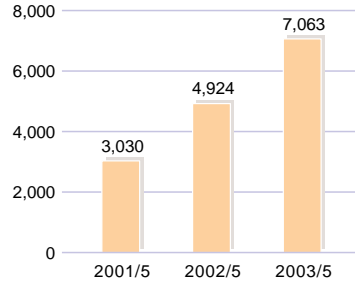
総資産 390億13百万円
前期比 33.5%増
株主資本 140億90百万円
前期比 30.0%増



営業利益の推移

(単位：百万円/5月期)

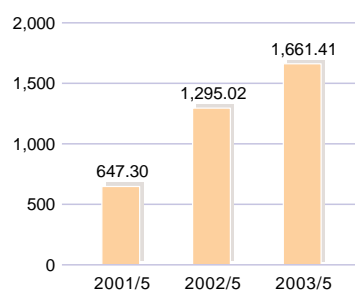
70億63百万円
前期比 43.4%増



1株当たりの株主資本の推移

(単位：円/5月期)

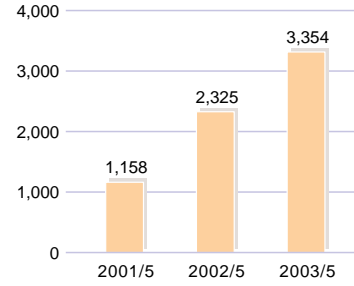
1,661円41銭
前期比 28.3%増



当期純利益の推移

(単位：百万円/5月期)

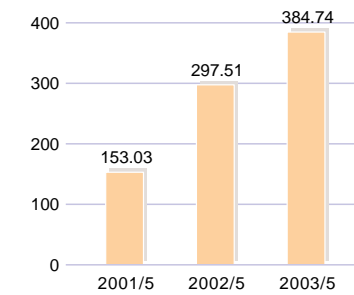
33億54百万円
前期比 44.3%増



1株当たりの当期純利益の推移

(単位：円/5月期)

384円74銭
前期比 29.3%増



営業の概況 (連結)

営業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、長期的不況下において上場企業の倒産件数や完全失業率が戦後最悪を記録した上、企業収益の低迷及び金融不安、雇用情勢の悪化を背景とした個人消費の低迷等により、景気は依然として厳しい状況で推移いたしました。

外食産業におきましても、消費マインドの冷え込みを背景に客数が減少し、既存店での売上高、客単価がともに低下傾向にあるなかで、産地偽装表示事件に加えて無許可食品添加物使用問題等が発生するなど、業界全体は、一段と厳しい状況を迎えることとなりました。

このような状況のもと、当社は少子化・高齢化、単身・二人世帯の増加、女性の就業率の上昇等のなかで、食市場全体の変化を把握した上で、商品やサービスに強いこだわりをもち、お客さまにご満足いただけるよう品質と鮮度の向上に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高527億70百万円(前期比33.9%増)、経常利益68億13百万円(同45.0%増)、当期純利益33億54百万円(同44.3%増)となりました。

次期におきましても長期化するデフレ経済等を背景に個人消費の低迷などから、外食産業におきましても引き続き厳しい経営環境が予測されます。このような状況のなかで、当社グループといたしましては、規模のメリットによる競争力の強化を図り、引き続き新規出店を推し進めドミナントエリアの拡大と密度を高めるとともに、店舗運営とそれを支えるロジスティックスの効率化をより一層推進してまいります。

以上により、平成16年5月期の連結会計年度売上高649億円(前期比23.0%増)、連結経常利益85億円(同24.7%増)、連結当期純利益45億30百万円(同35.0%増)を見込んでおります。

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (自平成14年6月1日 至平成15年5月31日)	前 期 (自平成13年6月1日 至平成14年5月31日)
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	52,770	39,408
売上高	52,770	39,408
営業費用	45,707	34,483
売上原価	20,202	15,506
販売費及び一般管理費	25,504	18,977
営業利益	7,063	4,924
営業外損益の部		
営業外収益	62	37
受取利息及び配当金	34	17
その他の営業外収益	27	20
営業外費用	311	262
支払利息	225	155
社債発行差金償却	55	60
新株発行費	0	26
その他の営業外費用	31	19
経常利益	6,813	4,700
特別損益の部		
特別利益	14	
店舗退去補償金受入額	14	
固定資産売却益	0	
特別損失	859	511
固定資産売却損	28	
固定資産除却損	310	303
賃借設備解約損	46	96
リース資産処分損	24	13
貸倒引当金繰入額		14
投資有価証券評価損	424	57
退職給付会計基準変更時差異処理額	23	23
その他の特別損失	2	2
税金等調整前当期純利益	5,968	4,188
法人税、住民税及び事業税	2,982	1,944
法人税等調整額	371	103
少数株主利益	2	21
当期純利益	3,354	2,325

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成15年5月31日現在)	前 期 (平成14年5月31日現在)	科 目	当 期 (平成15年5月31日現在)	前 期 (平成14年5月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	9,017	6,763	流動負債	11,450	11,403
現金及び預金	7,227	5,314	買掛金	1,833	1,607
受取手形及び売掛金	155	171	短期借入金	14	451
たな卸資産	620	534	一年内返済予定長期借入金	4,316	2,373
繰延税金資産	351	213	一年内償還予定社債金		3,000
未収入金	196	208	未払金	1,307	1,126
その他	477	333	未払法人税等	1,990	1,386
貸倒引当金	11	12	未払消費税等	415	231
固定資産	29,995	22,394	未払費用	1,502	1,168
有形固定資産	19,796	15,211	その他	70	57
建物及び構築物	18,203	13,207	固定負債	13,424	6,778
工具器具及び備品	1,823	1,689	長期借入金	13,161	6,601
土地	3,583	3,333	預り保証金	44	25
建設仮勘定	469	597	退職給付引当金	202	144
その他	14	16	その他	16	7
減価償却累計額	4,298	3,632	負債合計	24,875	18,182
無形固定資産	173	134	少数株主持分		
営業権	6	13	少数株主持分	47	193
その他	167	120	資本の部		
投資その他の資産	10,024	7,048	資本金	4,041	
投資有価証券	939	624	資本準備金	3,062	
繰延税金資産	379	231	連結剰余金	3,904	
敷金及び差入保証金	7,680	5,407	その他有価証券評価差額金	170	
その他	1,179	894	資本合計	10,837	
貸倒引当金	154	108	資本金	4,104	
繰延資産		55	資本剰余金	3,125	
社債発行差金		55	利益剰余金	6,915	
			その他有価証券評価差額金	55	
			自己株式	0	
資産合計	39,013	29,213	資本合計	14,090	
			負債、少数株主持分及び資本合計	39,013	29,213

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

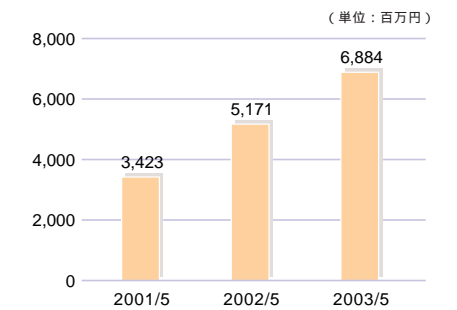
科 目	当 期 (自平成14年6月1日 至平成15年5月31日)	前 期 (自平成13年6月1日 至平成14年5月31日)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	6,884	5,171
税金等調整前当期純利益	5,968	4,188
減価償却	1,777	1,200
投資有価証券評価損	424	57
退職給付引当金の増加	58	52
貸倒引当金の増加	44	106
受取利息及び配当	34	17
支払利息	225	155
社債発行差金償却	55	60
新株発行手数料	0	26
シナジーローン手数料	22	16
固定資産売却益	0	0
固定資産売却損	28	303
固定資産除却損	310	96
買掛金解消	46	13
リース資産の処分	24	16
売上債権の減少	16	15
たな卸資産の増加	85	129
仕入債務の増加	226	436
未払消費税等の増加	183	149
未払費用の増加	324	398
役員賞与	95	180
小利息及び配当金の受取額	9,519	6,950
利息の支払額	1	1
リース資産処分損の支払額	229	143
法人税等の支払額	28	85
法人税等の支払額	2,378	1,551
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	9,920	9,599
定期性預金の預入による支出	80	89
定期性預金の払戻による収入	72	96
投資有価証券取得による支出	540	
子会社株式の取得による支出	145	
有形固定資産の取得による支出	6,350	6,321
有形固定資産の売却による収入	18	18
有形固定資産の除却に係る撤去費用等の支出	58	65
無形固定資産の取得による支出	59	56
長期貸付けによる支出	34	15
長期貸付金の回収による収入	4	2
敷金及び差入保証金の預託による支出	2,632	2,808
敷金及び差入保証金の回収による収入	328	225
長期前払費用の支出	441	567
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	4,940	6,581
社債償還による支出	3,000	
短期借入れによる収入	3,420	6,320
短期借入金の返済による支出	3,857	5,901
長期借入れによる収入	11,340	3,500
長期借入金の返済による支出	2,836	1,085
新株発行による収入	126	4,048
新株発行費用支出	0	26
自己株式の取得による支出	0	0
シナジーローン手数料	46	226
配当金の支払額	250	
IV 現金及び現金同等物の増加額	1,904	2,152
V 現金及び現金同等物の期首残高	5,237	3,084
VI 現金及び現金同等物の期末残高	7,141	5,237

剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (自平成14年6月1日 至平成15年5月31日)	前 期 (自平成13年6月1日 至平成14年5月31日)
連結剰余金期首残高		1,979
連結剰余金減少高		
配当金		227
役員賞与		173
当期純利益		400
連結剰余金期末残高		3,904
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高		
資本準備金期首残高	3,062	3,062
資本剰余金増加高		
増資による新株の発行	63	63
資本剰余金期末残高		3,125
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高		
連結剰余金期首残高		3,904
利益剰余金増加高		
当期純利益	3,354	3,354
利益剰余金減少高		
配当金	251	
役員賞与	92	343
利益剰余金期末残高		6,915

営業活動によるキャッシュ・フローの推移



営業の概況(単体)

営業の経過及び成果

店舗販売面につきましては、顧客動向と採算性を重視した店舗展開を継続してまいりました。そのひとつとして、お客さまの来店意欲を高めるためテレビコマーシャルは毎月メニューにないお値打ち商品を放送し、また、お客さまの口コミやサービスと質の高さが各マスメディアに取り上げられるなど着実に成果をあげることができました。

商品面につきましては、確かな品質と豊富な品揃えを低価格で仕入れるといった基本に力を注いでまいりました。既存商品については一層のグレードアップ、また、生魚にこだわらない「まぐろの竜田揚寿司」「コンビーフ軍艦」などバラエティー豊かなメニューを展開することで、幅広いお客さまに気楽に楽しんでいただける要素も果たしております。

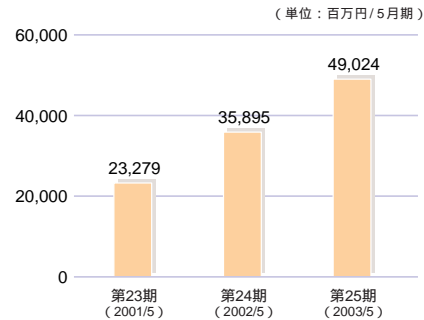
店舗開発面につきましては、お客さまの居心地よさを追求した店舗デザインと高齢化社会に向けてバリアフリー仕様に徹底し、通路幅も広く、高い天井とともに開放感を与えております。厨房につきましては、従業員が楽しく仕事ができ、安全で働きやすく設計してまいりました。新規出店は、前期に引き続き、首都圏、中京・東海地方、近畿地方などの主要都市などの厳選した場所に店舗展開をすることにより、立地戦略の幅が広がってまいりました。

期中の新規出店は59店舗、そして統廃合等で26店舗の閉鎖を行った結果、当期末の店舗数は206店舗となりました。

この結果、当期の売上高は、490億24百万円となり、前期に比べ36.6%増となりました。

一方利益面につきましては、売上高規模拡大、原価率コントロールの確立により、経常利益は、67億50百万円と、前期に比べ52.2%増、当期純利益は、33億52百万円と、前期に比べ48.7%増となり、売上高、経常利益、当期純利益とも4期連続過去最高を更新いたしました。

売上高の推移(単体)



損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (自平成14年6月1日 至平成15年5月31日)	前期 (自平成13年6月1日 至平成14年5月31日)
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	49,024	35,895
売上高	49,024	35,895
営業費用	42,046	31,253
売上原価	18,832	14,124
販売費及び一般管理費	23,213	17,129
営業利益	6,977	4,642
営業外損益の部		
営業外収益	60	36
受取利息及び配当金	34	16
保険代入手数料	2	2
家賃収入	8	4
その他の営業外収益	14	11
営業外費用	287	242
支払利息	171	102
社債償還利	29	34
社債発行差金償却	55	60
新株発行費用	0	26
その他の営業外費用	30	18
経常利益	6,750	4,436
特別損益の部		
特別利益	14	
店舗退去補償金受入額	14	
固定資産売却益	0	
特別損失	822	417
固定資産売却損	28	
固定資産除却損	290	246
賃借設備解約損	43	63
リース資産処分損	13	10
投資有価証券評価損	424	57
退職給付会計基準変更時差異処理額	21	21
その他の特別損失		16
税引前当期純利益	5,942	4,019
法人税、住民税及び事業税	2,930	1,865
法人税等調整額	339	100
当期純利益	3,352	2,254
前期繰越利益	524	104
当期末処分利益	3,876	2,358

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (平成15年5月31日現在)	前期 (平成14年5月31日現在)
資産の部		
流動資産	7,760	6,208
固定資産	28,682	21,731
有形固定資産	18,256	14,395
無形固定資産	156	117
投資その他の資産	10,270	7,218
繰延資産		55
資産合計	36,443	27,995
負債の部		
流動負債	10,240	10,578
固定負債	12,090	6,562
負債合計	22,330	17,141
資本の部		
資本金		4,041
資本準備金		3,062
利益準備金		61
その他の剰余金		3,858
任意積立金		1,500
当期末処分利益		2,358
評価差額金		170
資本合計		10,853
資本金	4,104	
資本剰余金	3,125	
資本準備金	3,125	
利益剰余金	6,938	
利益準備金	61	
任意積立金	3,000	
当期末処分利益	3,876	
株式等評価差額金	55	
自己株式	0	
資本合計	14,112	
負債・資本合計	36,443	27,995

利益処分

(単位:円)

科目	金額
当期末処分利益	3,876,833,234
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金	420,197,900
1株につき50円 普通配当 15円 (特別配当 35円)	
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	94,916,000 (7,200,000)
別途積立金	2,500,000,000
次期繰越利益	861,719,334

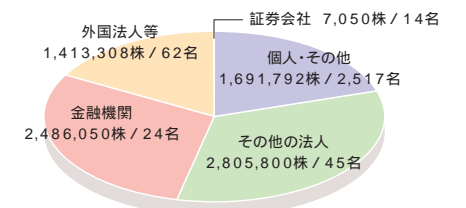
株式の状況

大株主

(2003年5月31日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
株式会社ジェム・エンタープライズ	2,700,000株	32.12%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	912,500	10.85
徳山淳和	724,800	8.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	438,650	5.21
野村信託銀行株式会社(投信口)	214,050	2.54
荒木操	200,000	2.37
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	194,750	2.31
ゴールドマンサックスインターナショナル	189,300	2.25
ビービーエイチフォーフィデリティ	180,500	2.14
ジャパン・スモール・カンパニー・ファンド	144,850	1.72
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)		

所有者別株式数の状況



会社概要

(2003年5月31日現在)

商号 カッパ・クリエイト株式会社
 創業 昭和48年8月
 設立 昭和58年8月29日
 資本金 41億448万円
 従業員数 792名
 本社所在地 埼玉県さいたま市北区宮原町3丁目372番地
 Tel 048-666-6313 (代表)

工場等 上尾工場 埼玉県
 関東商品管理センター 埼玉県

事業内容 1. 飲食店の経営
 2. 食料品の加工及び販売
 3. 損害保険代理業
 4. 不動産の売買、賃貸借及びその仲介業

主な取引銀行 (株)みずほ銀行
 (株)UFJ銀行
 (株)三井住友銀行
 (株)千葉銀行

役員 (2003年8月27日現在)

代表取締役会長	徳山 淳和
代表取締役社長	荒木 操夫
専務取締役	梅崎 和夫
常務取締役	山下 昌三
常務取締役	坂内 研次
常務取締役	藤沢 清宏
取締役	乾 光宏
取締役	坪根 照男
取締役	清水 助一
取締役	関 令二
取締役	筒井 泰宏
取締役	池端 伸徳
取締役	渡辺 忍治
監査役(常勤)	鈴木 勝三
監査役	渡辺 隆三
監査役	小川 直樹
監査役	友竹 稔

監査役渡辺隆三、小川直樹、友竹 稔の3氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

連結子会社の会社概要(株式会社取得)

所在地	
本社	〒530-0012 大阪市北区芝田1丁目5番6号 梅田旭ビル4階 TEL.06-6375-9131 http://www.toku-toku.co.jp
西日本営業部	〒530-0012 大阪市北区芝田1丁目5番6号 梅田旭ビル4階 TEL.06-6375-9131
東日本営業部	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町3丁目372番地 (日交宮原ビル3階カッパ・クリエイト(株)内) TEL.048-662-0123

設立	昭和54年2月
資本金	2億2,500万円 カッパ・クリエイト株式会社93.6%出資
事業内容	直営店及びフランチャイズ・チェーンによる手打うどん店の全国展開
主要取引金融機関	(株)みずほ銀行 (株)UFJ銀行 (株)三井住友銀行
代表取締役社長	山下 昌三
加盟団体	(社)日本フランチャイズ・チェーン協会正会員

多彩なPR活動。 TVCMも好評放映中。

当社ではかっぱ寿司のブランド力を向上させるために、テレビCMなどによるセールスプロモーションも、積極的に実施しています。お客さまの来店意欲を高めるため、テレビCMでは、毎月メニューにないお値打ち商品を放送し、また、お客さまの口コミやサービスの質の高さが各マスメディアに取り上げられるなど着実に成果をあげています。

また、当社「かっぱ寿司」の公式ホームページでは、会社業績や会社概要に加え、新店オープン情報など、最新の情報をご覧ください。



<http://www.kappa-create.co.jp>

ご優待のお知らせ



50株以上ご所有(平成15年5月31日現在)の株主様に対し、当社専用の「株主優待御食事券」を発行いたしました。株主様のお近くの「かっぱ寿司」で、当社が全国展開を進める味覚をご賞味いただき、ご意見をいただければ幸いです。

1,000株以上	1,000円券 20枚
500株以上1,000株未満	1,000円券 10枚
50株以上500株未満	1,000円券 5枚